



兵庫県いなみ野学園 「特任講師」のご紹介

兵庫県いなみ野学園では、大学院講座修了生を対象に、生涯学習施設での講師や指導者を輩出するための「研究生」制度を実施しています。

ここに紹介する研究生は、その調査研究活動が認められ、いなみ野学園の「特任講師」の称号を付与された者です。いなみ野学園の「特任講師」は、地域の生涯学習講座、公民館等で講演を行うなど、多くの実績があります。

ご要望に応じて出向きますので、ぜひご活用ください。

ご相談・お問い合わせは、裏面をご覧ください、いなみ野学園担当までご連絡ください。

(なお、特任講師のほか、元特任講師、准講師についても掲載しています。)

1 特任講師の派遣申請について

特任講師の派遣は随時受け付けます。派遣を希望する団体の担当者は、事前に電話等でいなみ野学園に申し込んで下さい。派遣希望のあった特任講師と調整の上、その可否を申込みのあった団体の担当者へご連絡します。

(連絡先) 〒675-0188 加古川市平岡町新在家 902-3

TEL 079-424-3342

FAX 079-424-3475

2 謝金等について

特任講師への謝金等については、主催者の定めによるものとします。

3 派遣の対象外

次のいずれかに該当すると認められるときは、派遣の対象外とさせていただきます。

- (1) 政治、宗教、営利を目的とすると認められるとき
- (2) 苦情、陳情、交渉等を目的とする場になるおそれがあるとき
- (3) その他、講師の派遣が適当でないと認められるとき

4 元特任講師・准講師について

元特任講師：いなみ野学園元研究生

准講師：いなみ野学園大学院講座修了者

この名簿に記載された元特任講師及び准講師は、上記1～3の特任講師の扱いに準じます。

令和6年度 兵庫県いなみ野学園 特任講師 講義内容一覧

【講座の分類】

A	人文科学	1	歴史・思想・哲学
		2	言語・文学・芸術
		3	スポーツ・健康
B	社会科学	1	法律・経済・経営
		2	政治・行政
		3	社会・産業・環境
C	自然科学	1	物理・化学・工学
		2	医学・生物・農学
		3	地球・天文・地学

* 講師は各分類ごとに五十音順に掲載

* (元) : 元特任講師 (准) : 准講師

A 人文科学

1 歴史・思想・哲学

講師名・テーマ	講義内容
栗野 勝介 いなみ野台地の歴史	いなみ野台地は西神戸の明石川上流にある雌岡山山麓を最高に、加古川下流に向かって傾斜した台地である。この台地には、菅原道真が京都から九州の大宰府へ送られるとき、東二見から瀬戸川を上って天満神社を参拝し、曇川にから加古川に下りて瀬戸内海へ出て大宰府へ向かったとある。1100年前の話である。更に古い話では、下流付近にある稲根神社に五穀の神である倉稲魂命（女性の神様でうがのみたまのみこ）が、この地域に稲作をはじめさせたという言い伝えと、ため池を作って稲を育てたという言い伝えがある。この台地に、ため池が多い所以の話である。
遠周 正義 空海のあしあとを辿る ～空白の7年間と不思議な事柄について～	空海の幼少期から、高野山を開創して入定するまでのあしあとを辿るうちに、24歳から31歳までの「7年間が空白の期間」となっていることに気付きました。またその生涯に“不思議”と思える事柄が多く存在することにも気付きました。これらのこととお話ししたいと思います。
岡井 宏道 地方（兵庫県内各都市・各町村）史の研究	旧兵庫五国の各都市・各町村について、以下の内容を研究している。 1. 各村（集落）の歴史と文化財（歴史遺産） 2. ①各村（集落）の行政区画変遷をたどり、現在の市町名に至った経緯 ②各村（集落）の年貢の目安となるの米の収穫高（石高）の調査 3. 主に江戸時代における各村（集落）の戸数と人口の調査 4. 各村（集落）の氏神（鎮守）がどこから勧請されたか、何を祀っているか、本宮はどこか等の調査 5. 檀那寺の創建者（開基者）は誰か、大本山はどこか等の調査 6. その他、その地域に関連した諸事項の研究

<p>小笠原 壽範 古代中国の歴史『史記』</p>	<p>古代中国では、歴史的な数々の伝承は存在したが、記録手段は確立しても、歴史として信頼できる記録は残されてなく、前漢の太史令に就任した司馬遷は、真の歴史書の必要性から、若くして中華の各地を巡り、歴史的な情報・資料を収集して準備しており、太史令であった父からの遺言にも押されて、自ら歴史書『史記』を書き上げた。『史記』は「紀伝体」と呼ばれる形式を備えていて、中国24正史の筆頭に置かれ、24正史は全て「紀伝体」の形式を踏襲している。中国で二十世紀に、歴史の証明に導入された考古学的な確認手段によって、『史記』の記述の正確さが再認識されている。</p>
<p>小笠原 壽範 『淮南子』の教え</p>	<p>中華の春秋戦国時代に偉大な思想家によって、百家争鳴と称されているように多くの偉大な思想が創出され、大きく発展した。それらの思想が、平和で自由な淮南国に参集した学士達によって、見直され集約されて、全21項目からなる一冊の書『淮南子』として纏められ、百科全書的な内容の構成から、現代も知識を求めて世界各国の研究者に親しまれている。この書では、自由で中立的な立場を貫かれており、民主主義的な立場において、民主的な社会運営が推奨されていて、その教えは現代においても違和感なく受け入れることができる。</p>
<p>小笠原 壽範 シルクロードの開拓</p>	<p>ユーラシア大陸の中央の広大な地帯は、険しい山岳や砂漠によって、地味は固より人の集落さえもなく、長く人を寄せ付けなかった。この人の住まない広大な荒野における交易路の開拓は、先人の生命を賭した苦難の連続であり、開通には困難を極めている。それまでユーラシア大陸の東西で、それぞれ育まれた文化や文明は独自に発展してきた。この異質とされる東西の文化や文明の交流を可能にしたのが、後に「シルクロード」と名付けられた交易路である。この交易路の開拓は、未知の土地への期待に駆られ、希望と信念を貫き、苦難を克服しての努力の賜であり、東西の異質な文化・文明の融合は東西の各文化・文明の発展に大きな役割を果たしている。</p>
<p>小笠原 壽範 万里の長城</p>	<p>中国を代表する建造物は、数え切れないほどあるが、中でも世界最大の規模を誇る万里の長城は、世界に類を見ない巨大さで誰もが興味を抱かされる。この建造物は如何なる目的で、誰によって建造されたか。多くの謎が秘められている。今では役割を終えて無用の建造物とされるが、人里離れた不便で急峻な峰々を縫って建造され、建設に費やされた資材・労力や年月は、膨大な量であり。また、建造技術は目覚ましく進化された。北方の異民族との境界に長々と横たわり、また、各地に点在する城壁（万里の長城）の歴史的な役割を振り返る。</p>
<p>小笠原 壽範 大和の風土が育んだ神仏習合</p>	<p>我国では、神社に参詣した時は拍手を以て祈り、仏寺では数珠を以て両手を合掌して祈ると教えられている。自然崇拝から発展してきた神信仰と外国から伝来した仏教が、互いに補完し合って日常的に信仰されている。世界の三大宗教の一つとされる仏教と信仰形態の異なった神信仰が共に信仰される神仏習合の形態は、如何なる経緯によって形成されたのか、その後どの様な変遷を経て来たかについて歴史を辿る。世界的にも希有な信仰形態が存在する意義について考えてみる。</p>
<p>小笠原 壽範 漢字の恵み</p>	<p>世界の四大文明圏で文字が発明され、漢字はユーラシア大陸東端に打ち立てられた四大文明の一角、その中華において発明されている。漢字は、長く中華の周辺の国で使用されて来ている。我国への漢字の伝達過程と我国での活用、その後の我国特有の言語に対応する表記が容易に行えるように、漢字と仮名文字交じりの表記方法の改良、独自の考案による七五調や五七調等の我国文学の物語・詩歌の発展について探る。漢字の繁体字を筆記及び印刷のための合理化に、画数を縮小しての的確で合理的な表現に用いる漢字の工夫について考える。</p>
<p>岡田 康男 古代中国（先史・神話・伝説</p>	<p>中国大陸には、中間に流れる淮河を境に北方の黄河、南方の長江の二つの大河が流れるが、中国は、大別してこれらの大河に文明が発達した。北の乾燥地帯で畑作中心の黄河文明、南の湿潤地帯で稲作中心の長江文</p>

<p>時代～春秋戦国時代</p>	<p>明である。夫々に異なった文化と人間を育て、対立を通じて交流し、これらの積み重なるうちに中国世界は広がり、歴史は膨らんでいった。やがて、黄河文明が歴史時代の殷（商）や周に繋がって中国大陸の中軸となり、長江文明は、次第に中央集権国家を創出した黄河文明に同化吸収されて前 221 年、秦による天下統一となる。</p>
<p>岡田 康男 秦の始皇帝（始皇帝の中国統一と滅亡）</p>	<p>前 221 年、秦王政は、戦国 6 国のうち最後に残った斉王国を滅ぼして天下統一を完成した。自ら皇帝（死後始皇帝）と称し、治政としては主要経済活動や政治改革を実行、法律の厳格な運用を統治の根本とすると共に、従来の封建制から郡県制への地方統治の全国的な転換を実施した。また、中央集権、官僚統治制度の確立を図ったほか、貨幣・度量衡・文字の統一・道路整備・交通規則の制定等を行った。更に、始皇帝陵の造営を始めとする国家大事業、国家体制維持のための焚書坑儒も行った。前 210 年に旅の途中で急死、やがて秦は滅亡へ向かい帝国は瓦解した。</p>
<p>岡田 康男 漢帝国（前漢）（高祖～平帝）</p>	<p>前漢は、秦の圧政に不満を持った民衆が、始皇帝の死後に反乱を起こす。反乱勢力の中から楚漢戦争に勝利した劉邦（高祖）が新たに統一して建てた、中国で最初の長期安定した王朝である。前 202 年、初代皇帝劉邦は郡国制を採用、漢はそののち呉楚 7 国の乱を鎮圧して基盤を整え、前 1 世紀後半の武帝の時に中央集権的な支配体制を確立する。と同時に漢字・漢文に代表される漢民族文化の母体をも作った。盛んに匈奴などに対する征服活動を行い、周辺に帝国支配を及ぼすが、次第に宦官と外戚が実権をふるうようになり、8 年に王莽に篡奪され滅亡した。</p>
<p>岡田 康男 新・漢帝国（後漢）（王莽・光武帝～献帝）</p>	<p>新は 8 年に漢の王位を篡奪した王莽が開いた王朝で、復古主義的な政治で社会が混乱、23 年に崩壊。25 年、赤眉の乱を鎮定し、混乱の中から台頭した劉秀は、光武帝として帝位に就き、漢王朝を復興させた。これ以降を後漢という。1 世紀から 2 世紀にかけて国力を安定させ、また外交面では匈奴や西域諸国、南方を服属させてかつての漢の栄光を取り戻した。後漢においても幼少の皇帝が相次ぐ中、宦官・外戚が台頭して政治は乱れ、また各地に群雄が割拠し、実質的には滅んでいたが、魏の曹操の保護の下に 220 年まで存続、献帝が曹丕に位を奪われ崩壊した。</p>
<p>岡田 康男 三国志（三国時代 曹魏・孫呉・蜀漢）</p>	<p>三国志は 3 世紀の中国を舞台とする。撰者は西晋の陳寿で正史として書かれた。漢の末期、漢王朝は腐敗しており、張角がこの王朝を倒すために黄巾の乱を起こす。漢王朝はこの乱を鎮めるが、討伐で活躍した豪族たちが力を握り漢王朝の権威は益々弱体化する。その混乱の中から英雄たちが現れる。400 年続いた漢の実権を掌握した曹操、漢を守ろうとする劉備、赤壁の戦いで曹操を破る主力となった孫権が、夫々基礎を創った魏・蜀・呉の三国が争い合った時代である。卑弥呼の邪馬台国が記録される「魏志倭人伝」を含む紀伝体で書かれた歴史書である。</p>
<p>岡田 康男 戦後日本の金融経済の四方山話</p>	<p>日本は、第 2 次世界大戦で敗戦。その後、世界から「奇跡」と称された高度経済成長を成し遂げた。ところが、平成のバブルが崩壊し、デフレ不況に落ち込んでしまった。なぜ、このようになってしまったのか、次の 5 項目を取り上げてみたい。1、1 ドル＝360 円時代は為替に不介入だったのか 2、狂乱物価の原因は石油ショックだったのか 3、「プラザ合意」以降、アメリカの圧力で政府が円高誘導をするようになったのか 4、バブル期はものすごいインフレ状態だったのか 5、間違った経済常識が生んだ失われた 20 余年ではなかったのか。</p>
<p>金山 實 論語に親しんで心の健康を～孔子の一生から論語に親しむ～</p>	<p>「論語」は紀元前 6 世紀から 5 世紀にかけて中国に生きた孔子（B. C. 551～479 年）の断片的な言葉の集積です。何人かの有力門人、さらにその弟子たちやゆかりの人たちが保存して伝え引き継いできた孔子とその門人たちの言行がまとめられたものです。孔子の歩んだ道をたどりながら、「論語」に興味を持っていただけるようお話しします。</p>
<p>佐藤 進 明石城・明石藩の謎を探る～</p>	<p>船上城（明石藩が出来るまでの城）にあった長屋門が唯一当時の遺った建物。そこに明石藩主 8 代目の松平直明が転入した折に織田家がここに居住。「織田家」は「おたけ」とよぶ名前、なぜ「おた」なのかを探る。</p>

織田家長屋門編～	
佐藤 進 明石城・明石藩の謎を探る～ 宮本武蔵編～	剣豪武蔵が明石城の新築と明石の町づくりに関わった。武蔵は、巖流島での決闘、兵法書の五輪書に代表される文筆活動、加えて水墨画は国の重文指定を受けるなど、文武にわたる一流の才能の持ち主であった。謎が多いと言われる武蔵がなぜ明石と関わるようになったのか、明石の町づくりで武蔵が今に残したのはどれか。生まれてから生涯を終える熊本・肥後までの生涯を俯瞰しつつ、明石と武蔵を関係を探る。
塩見 俊郎 (元) 平家物語と仏教	「祇園精舎の鐘の声諸行無常のひびきあり・・・」から始まる平家物語は平家一門の繁栄とその後の衰退を描くが、そこには仏教思想、特に当時の混乱した社会を反映した浄土思想がちりばめられている。日本の浄土教は源信の「往生要集」から多くの人々に普及し始めた。平家物語の諸巻を紐解きながらそれらを拾い集めました。現在の私たちにも身近なこれらを辿りながら同時に思いを馳せるとともに、これからの心の糧になれば幸いです。
塩見 俊郎 (元) 播磨の万葉集	いなみ野学園50周年の中西進さんの特別講義のように、播磨をとりまく瀬戸内は万葉集に多く歌われている。宮廷歌人の柿本人麻呂を始め大宰府へ赴任の大伴旅人や任地へ向かう防人など。これらの歌を鑑賞するとともに、飛鳥、奈良時代の人々の暮らしに思いを寄せる。広く兵庫県内の歌を取り上げる。
篠原 英昭 いなみ野と住吉神	いなみ野は、古代、神々（神社）が祀られた頃、特異な場所であった。いなみ野は陸路山陽道、瀬戸内海海路（後の五泊の一つ）、日本海にも繋がっていく加古川水系が交錯する交通の要衝地、そして都（中央勢力）とつかず離れずの絶妙の位置、更に大和政権と吉備勢力、出雲勢力とが対峙する場所であった。それ故、技術や知識、文化や宗教面において外来のものと同様な固有のものが入り乱れたであろうことは間違いない。現在と古代の架け橋である神社と、この地に語り継がれてきた物語をたどり、私たちの郷土を今一度振り返る機会としたい。
篠原 英昭 いなみ野と天神	いなみ野は陸路山陽道、瀬戸内海海路、加古川水系が交錯する交通の要衝地、そして都（中央勢力）とつかず離れずの絶妙の位置でもあった。讒訴により罪人として太宰府に左遷される途次、辺境の地の入口・いなみ野で菅原道真は権勢への執念の人ではなく、実に人間らしい側面を伺わせ、その辿った道の人々の心に多くの物語を残している。現在と古代の架け橋である神社と、この地に語り継がれてきた物語をたどり、私たちの郷土を今一度振り返る機会としたい。
渋谷 保子 (元) 日本文化に影響を与えた桜・お香	日本の古典に見られる桜と武士道の関係や、現代文化の中の桜についてのお話と、日本人が1400年という長い年月をかけて発展させてきた「香道」のお話をします。代表的な桜の映像や、源氏物語を題材にした香道の始まりのお話をお楽しみください。
豊島 征子 陰陽師 蘆屋道満 ～伝説と陰陽師～	数年前、夢枕獏氏の小説『陰陽師』から発したスーパースター「陰陽師 安倍晴明」がブームになりました。アンチヒーローとして登場したのが「陰陽師 蘆屋道満」です。生誕地は加古川市神吉町と言われていますが、確たる証拠はなく、未だ解明されていません。ただ、道満塚や記念碑などは各地に存在し、地域の伝説として語られています。現地に赴き、道満の生存説を探してみたいと思います。また、陰陽師とは何者なのかも考えていきたいと思っています。
豊島 征子 陰陽師・安倍晴明のシニア時代～藤原道長に信用され出世した陰陽師～	平安中期は平安王朝のなかでも文化的にも最も充実した時期で、紫式部や清少納言など平安王朝を代表する女性たちが安倍晴明と同じ空気を吸っていました。また摂関時代の全盛期を築いた藤原道長が活躍した時代でもあり、道長親子や一条天皇に重用された晴明は、その子孫が陰陽・天文家として繁栄することになります。85歳の死亡まで陰陽師として活躍した安倍晴明は、人生100年時代の現代のお手本といえるかもしれません。国家公務員の晴明の行動を追ってみました。

<p>名古 みすず 日本語教育の歴史～明治から現在～</p>	<p>なぜ、現在の私たちは「日本語」をはなしているのか？ 世界でもめずらしい「漢字」「カタカナ」「ひらかな」「ローマ字」の4種類を使用するのか？ 日本語誕生について、歴史からひも解く。第二次世界大戦後の混乱期における日本語の選択をGHQの考え方もふくめて話す。日本語教育と、学校における国語との文法等の違いや、留学生や日本で働く外国人の現状にもふれたい。</p>
<p>橋本 猛志 『播磨国風土記』をひもとく～古代からのメッセージを未来へつなぐ～</p>	<p>今から約 1,300 年前の奈良時代に編纂された地誌「風土記」。これは大宝律令の施行により朝廷が地方の基本情報を収集するため、土地の肥沃さ、地名の由来、古老の伝承などを把握することが目的でした。日本各地で編纂されたはずですが、現在まとまった形で残っているのは五か国で、そのうち最も早く提出されたのが「播磨国風土記」です。当時記載された地名が、今でもなお使われていることなど、神話や説話などの面白く、ユーモアに溢れるメッセージが満載です。この未来へ手渡すべき地域の財産を、お伝え致します。</p>
<p>藤原 機 播磨の鉄道忌避伝説の真相～明治期山陽鉄道が高砂など海岸側を通らなかった本当の理由～</p>	<p>明治期に鉄道が敷設されると「宿場が寂れる」「稲が枯れる」「火災が起きる」などと地域の人々が反対したので駅や線路が遠くにできた、という言い伝えが事実かのように定着している。ところが近年、鉄道史家の調査・研究により、ほとんどが史実でないことが明らかになり、これらは「鉄道忌避伝説」と呼ばれている。播磨地方においても高砂など海岸側の鉄道反対運動も事実として伝承されているが、これを取り上げた研究事例がなかった。そこで、山陽鉄道史や当時の新聞記事など一次史料を丹念に調査し結論を得たので、その真相を述べる。</p>
<p>堀 隆一 文永・弘安の役(元寇)</p>	<p>1274 年の文永の役、1281 年の弘安の役は日本にとって未曾有の大事件であった。二度の元寇では対馬・壱岐が全滅に近い被害を受けたが、博多湾において日本の武士は勇猛果敢な戦を挑み、これを撃破した。弘安の役で台風が来襲したが、主たる勝因は武士の活躍であった。神風説は、戦前に流布されたものである。古今東西の上陸作戦についても触れる。</p>
<p>堀 隆一 働き方改革の温故知新</p>	<p>勤勉・勤労は日本人の美德と言われているが、古代からその淵源があった。日本の勤勉思想は二宮尊徳の「経済なき道徳は寝言であり、道徳なき経済は犯罪である」と洪澤栄一の「経済道徳合一説」に代表される。様々な不正、品質不良や過重労働が起こるのは、この精神を忘れ去ったからである。それを是正するために「働き方改革」が叫ばれているが、労働生産性の向上と両立させなければサボりに終わってしまう。</p>
<p>堀 隆一 源義経</p>	<p>源義経は日本史上最高の戦略家でありながら兄源頼朝との兄弟の相克で討取られた、これも日本史上最大の悲劇のヒーローで「判官鼻貞」といわれるほど日本国民に愛され続けられてきた人物である。能、歌舞伎の題材にもなり、映画やテレビドラマの主人公になった。史実に基づかない脚色された義経像も多くあり、史実と言い伝えを区別しながら、講義する。</p>
<p>堀 隆一 人間学のすすめ</p>	<p>人を大切にすることを学ぶ「人間学」を講義する。会社勤務で「人間学」の重要性に気付き、古今東西の先人の教えを紹介し、現在にどのように生かすかを学ぶ。</p>
<p>松尾 勝良 古墳時代の幕開け～卑弥呼と初期ヤマト政権の誕生～</p>	<p>3 世紀中葉、奈良盆地に巨大な前方後円墳、箸墓古墳が築かれた。以降、巨大な前方後円墳が奈良盆地から畿内へ、全国へ拡大していく。古墳時代の幕開けである。邪馬台国と卑弥呼の時代と重なり、激動する東アジア情勢との関わりを覗きながら考察する。</p>
<p>松尾 勝良 古墳時代の進展～海を越えたつながり～</p>	<p>3 世紀後半、初期ヤマト政権が成立し、朝鮮半島から鉄の輸入を拡大した。同時期、朝鮮半島では高句麗の南下が激化。倭は鉄輸入を確保するために出兵し百済と呼応して高句麗に対抗。朝鮮半島から多数の避難民が倭国へ到来。同時に朝鮮半島から生活用品、鉄器、防具など大量の文物がもたらされ倭国の国力は激変した。</p>

<p>松本 忠士 満蒙開拓団の派生と経済的背景～大地の子は何故発生したのか～</p>	<p>昭和10年代、何故満蒙開拓団が派生したのか？ その経済的背景はどんなだったのか？開拓団の派遣計画はどんな内容だったのか？その計画は順調に遂行されたのか？終戦時に開拓団に何が発生したのか？「大地の子」はどのようにして生まれたのか？等についての研究内容を発表する。</p>
<p>松本 忠士 5・15事件、2・26事件は何故発生したのか～日本を揺るがす様な大事件の背景は？～</p>	<p>昭和7年に発生した5・15事件、昭和11年に発生した2・26事件。日本を揺るがした事件は何故発生したのか？大正時代はどんな時代だったのか？その当時の日本の背景は？当時の若者達はどんな考えを持っていたのか？2つの事件の関係性はあったのか、無かったのか？当初思っていた改革は出来たのか、出来なかったのか、などについて調べた内容を発表する。</p>
<p>松本 忠士 大東亜戦争・太平洋戦争の仕掛け人は誰？ 戦後の我が国への評価は？</p>	<p>我が国は明治時代に2つの大きな戦争をした。暫くの間大きな戦争はなかった。満州日露戦争後、中国と協約した上で満州へ進出し、これを足がかりに大陸へ足を伸ばした。緒戦で盧溝橋において支那事変が発生した。支那事変の仕掛け人は誰だったのか？これが昭和16年に太平洋戦争へと繋がった。これの仕掛け人はだれか？一方、戦後の日本の評価はものがあったのか。我々は戦争を仕掛けたのは日本で、日本が悪いと我々の認識であるが、本当にそうだったのか、東南アジアの方達の評価はどうだったのか、を調査・研究した結果を発表する。(この講座は、令和6年10月以降とします)</p>
<p>三木 紘武 「大神戸」はいかにして実現されたのか</p>	<p>江戸末期、黒船による開国要求により、日米修好通商条約で兵庫の開港を約束した。幕府は兵庫ではなく、湊川の東の神戸村を開港場とした。神戸は寒村の漁村に過ぎなかった。戦後、神戸の大規模開発計画と実施に関わったのは、原口忠次郎(第12代市長)、宮崎辰雄(第13代市長)の傑出した市長だった。この計画と実施により、「大神戸」が実現されていた。</p>
<p>村上 國生 日本人の誕生</p>	<p>20万年前、アフリカで誕生した新人(ホモサピエンス)がどの様な経路で、何時日本にやってきたか。その後、緑豊かな森の国に変貌した日本列島で育まれた平等・公平の発想に基づく縄文文化と、紀元前400年頃、人が人を支配するという、全く違った文化を持ち込んだ大陸からの渡来人が、どの様に融合し、日本人が誕生したのか。</p>
<p>山口 征明 菅原道真の生涯とゆかりある神社</p>	<p>学問の神様として一般に知られている道真は、私の知っている人物とは違い、学者であり大臣まで登りつめた経歴を分かりやすく説明します。なぜ、大宰府に左遷されなければならなかったか等。訪問調査した神社多数あり、太宰府天満宮、北野天満宮他、ゆかりのある神社を写真を交えて紹介します。</p>
<p>山口 征明 大蔵谷宿場町の昔と今～繁栄していた時の宿場町と現在の町並みを比較する～</p>	<p>旧山陽道の街路筋で、明石城下から東進してきて、宿駅を形成していた大蔵谷宿場町。昔は繁栄していた宿場町も、今は昔ながらの家屋も建て替えられ、旧街道の面影が完全に失われる日もそう遠くないように感じられます。今後はどうすればよいか、どこの地域でも発生している課題を考えます。</p>

2 言語・文学・芸術

講師名・テーマ	講義内容
<p>栗野 勝介 民話にであって</p>	<p>このお話は東播磨地域の民話ですが、講演先の地域に残っている民話や昔話も含まれます。「胴切れのお地蔵さん」、「又部の弁天さま」、「右手をなくした阿弥陀さま」、「芝右衛門たぬき」、「法道仙人」など7～8話です。</p>
<p>田原 昇 神戸市北区の農村歌舞伎～受け継がれる庶民の芸能～</p>	<p>歌舞伎は、慶長8(1603)年に出雲の阿国(出雲大社の巫女)が京都四条河原に於いて舞を披露したのが始まりとされている。農村歌舞伎は、のどかな青空の下、役者と観客が一体となって舞台をつくり上げる光景は、脈々と受け継がれてきた伝統そのものです。村人が舞台上がり、収穫</p>

	<p>の祝い、祭りの余興、そして奉納のために演じて楽しんだ。まさに庶民の娯楽であった。その歌舞伎の歴史は、幕府からの弾圧との歴史であり、「ある工夫」と、「ある出来事」により歌舞伎の地位が劇的に向上したのである。</p>
<p>田原 昇 播磨国黍田村のかくれ芝居 ～江戸時代の農村歌舞伎～</p>	<p>歌舞伎は、能・狂言・文楽と並んで、日本の四大伝統演劇のうちの一つです。江戸時代の平和の中で生まれました。しかし幕末となると農民は芝居を見ることも、演じることも禁止された窮屈な時代となります。そこで、黍田村の庄屋与七郎は、文化9（1812）年、村人に憩いを与えるために、禁令を破り歌舞伎を披露します。歌舞伎の噂が広まり、代官所に出頭を命じられ、陣屋役人の取り調べを受けます。したたかな庄屋は、自ら作成した申立書を提出し、「歌舞伎は行っていない」と追及を巧みに逃れます。古文書からの背景をひも解きます。</p>
<p>豊島 征子 横溝正史と神戸湊川新開地</p>	<p>「犬神家の一族」等の名作を書き上げた「探偵作家 横溝正史」は、神戸市東川崎町で生まれました。自宅の近くには、「兵庫津」と呼ばれる港と、慶応3年開港の「神戸港」を分断する形で旧湊川が流れており、その川を埋め立てて誕生したのが、戦前屈指の歓楽街「神戸湊川新開地」です。複雑な家族構成で悩んだり、新開地の喧騒を楽しんで育った神戸時代は名作を生む基盤となりました。横溝正史の回顧録を繙きながら、当時の様子を描いていきたいと思えます。</p>
<p>堀 隆一 能『高砂』から学ぶ日本人の心</p>	<p>能「高砂」は、高砂神社の姥を訪ねる妻問婚の形態を示している。これは、古今和歌集の仮名序の「高砂住之江の松も相生のやうに覚え」を引用したものである。高砂の姥が万葉集を、住吉の尉が古今集をあらわし、松は永遠を意味する。万葉の上代、古今の延喜の御代が合体すれば、天皇の御世と和歌の道が繁栄し、平和な天下になる、というめでたい曲である。</p>
<p>横田 和子 三木露風へのファンレター ～赤とんぼの母・「かたの生涯」～</p>	<p>三木露風の童謡「赤とんぼ」は、130年経った今も日本で最も愛され歌い継がれています。懐かしい情景を歌ったこの歌には、母を想う切なさが隠されています。露風の母・かたは、今では当たり前になっている女性が活躍できる社会の礎を築きました。今、露風の母「碧川かたを朝ドラの主人公にする会」の活動の輪が大きく広がっています。私も「かたの会」の一員として、何度も龍野を訪れ勉強しています。かたさんの生き方を少しでも知って頂けたら嬉しく思います。朗読風で紹介します。</p>
<p>依藤 佐代子 ふしぎ絵巻の魅力 ～国宝・鳥獣人物戯画から～</p>	<p>京都梅尾の高山寺で代々伝わってきた国宝「鳥獣人物戯画」。鳥羽僧正によって描かれたといわれていますが確かなことはわかりません。漫画のルーツともいわれるこの絵巻は擬人化した動物たちや人びとの営みを墨一色で躍動的に描いた日本絵画史上屈指の作品です。洗練された筆致から生み出される愛らしい生き物たちの姿は時代を超えて私たちを魅了し続けています。墨の線、動物や人物の表情に着目すると、甲・乙・丙・丁の四巻はそれぞれ趣向に変化があり制作時期や筆者も異なるようです。この絵巻をより楽しむために全四巻を紹介します。</p>
<p>依藤 佐代子 「赤い鳥」と鈴木三重吉 ～起業家としての三重吉～</p>	<p>『赤い鳥』は、大正7年に「芸術的で高貴な雑誌」として華々しくデビューした児童文芸雑誌です。その『赤い鳥』が日本の児童文学の出発点としての成功を収めることができたのはどうしてなのか。それは、小説家・童話作家として活躍した鈴木三重吉に、もうひとつの「起業家としての働き」があったからではないかと考えます。そこで、『赤い鳥』創刊前後の鈴木三重吉の言動を「優れた起業家に必要な7つの基本資質（自信、ビジネスチャンス、失敗、仕事好き、決断力、変化の受け入れ、諦めない）」に照らし合わせて検証します。</p>

3 スポーツ・健康

講師名・テーマ	講義内容
岩崎 富子 高齢者「肉食」のすすめ ～正しい食生活で老化を遅らせよう～	高齢者の多くは加齢に伴い少しずつ体が弱り、年齢と共に食が細くなったり、あっさりした食事をとっている人も多く、体から骨と筋肉が減り、病気のリスクが高まるとされています。フレイルを予防し健康寿命を延ばし老化を遅らせるために、肉に含まれる重要な栄養素の動物性たんぱく質を効率よく摂取し健康を保つための正しい肉食を心掛けましょう。
大前 小夜子 笑おう・声を出そう	「笑う門には福来る」「笑いは世界の共通語」あなたは一日にどれくらい笑っていますか？ 笑いや笑顔には様々な健康効果、精神的効果があります。声はしっかり出ていますか？ 声をしっかり出して話すことは笑いや笑顔と共に人とのコミュニケーション作りに大切です。笑いと声出して若返りましょう。
金山 寛 趣味と健康寿命	最近人生 100 年時代といわれるようになりました。いなみ野学園研究生健康福祉系の研究テーマとして『人が健康で長生きするには』を設定し、健康な生活を維持するための課題について各人がそれぞれ興味のある項目を選び取り組みました。私は、平均寿命と健康寿命の差をいかに縮めるかが課題と認識し、特に趣味の果たす健康への役割について調査しました。その結果を報告します。
楠田 武司 どの飲み水が安全でおいしく環境にやさしいのか～ミネラルウォーターと水道水の相違点など～	私たちの身の回りの飲み水（水道水、浄水器類での処理水、ミネラルウォーター、自然水、海水淡水化水）の特徴などを説明するなかで、「ミネラルウォーターと水道水の違い」、「軟水、硬水の性状とその使い分け」、「健康に良いと宣伝されている水」について解説を加える。そして、安全性、おいしさ、価格、使用の利便性、環境保全（省エネ）の点から総合的にみた場合、飲み水は水道水がベストであることを述べたい。
原田 靖子 腸内環境をきれいにしよう	健康の要は腸である。腸は栄養素の消化吸収水分を吸収し便を排出、病原菌から体を守るなどの役割がある。その役割を果たすには、腸内に住む微生物（腸内細菌）のバランスが大事である。バランスが崩れが体に及ぼす影響や症状、保持するにはどうすべきかなどについて述べる。
水池 洋子 世界を走る田中希実～父と二人三脚で記録をめざして～	田中希実は小野市出身で、陸上女子中・長距離 9 種目の日本記録保持者です。東京 2020 オリンピックで 93 年ぶりの 1500m をはじめ、ブダベスト世界陸上 5000m など、海外主要大会で日本勢初入賞を果たし、世界のトップ選手に仲間入りし活躍しています。両親が陸上選手という環境もあって、父をコーチに厳しい練習を重ね、ひたむきに走る姿は多くの人に感動と勇気を与えています。
宮本 博道 ウルトラウォーキングの世界～人はなぜ歩くのか？～	近年は健康志向が高まり、日常的に 5 千～1 万歩のウォーキングしている人は多いが、ウルトラウォーキングの通常 1 日 100 キロ、15 万歩はいったいどのようなものなのか。そこにはなにがあるのか。ウルトラウォーキングの世界に迫る。「茨城の霞ヶ浦一周ウルトラウォーク 118 km」「ネパールのエベレスト街道高度 5000m」「富士山ふもと一周ウルトラウォーク 125 km」などのイベントも含めてお話をします。

B 社会科学

1 法律・経済・経営

2 政治・行政

3 社会・産業・環境

講師名・テーマ	講義内容
赤木 直美 明石のため池の現状について	兵庫県は全国でため池が一番多い県です。そのため池も今は埋め立てられてなくなっています。その現状について調べてみました。
赤木 直美 見直される路面電車と地域交通	私たちの年代では誰もが利用した路面電車。今では懐かしい乗り物ですが、20年ほど前から各地で見直されるようになりました。これからの地域交通についても考察してみました。
大前 小夜子 トイレの文化	今私たちは快適なトイレを毎日当たり前に使っていますが、世界中の人間が普通のようにしてトイレを使っているわけではありません。国によってはトイレに対する概念も事情も違います。トイレは人間の寿命を延ばす唯一の可能性であるとも言われています。歴史と共に様々に発展をしてきた世界のトイレ文化について、真面目に考えてみました。
岡田 妙子 兵庫県のうまいもん	兵庫県の地形は広大すぎるので加古川周辺の小野、加西、加美、氷上の近場の播州地方と丹波地方に焦点を当てて調査しました。地域ごとの皆さんは地元の活性化を願い、そしてすばらしい成果を上げていらっしゃるのに感動しました。
亀井 忠祥 地域コミュニティにおける防災能力の向上	最近の災害発生状況と加古川の溢水及び堤防決壊状況を概観する。災害発生時の問題点・課題である大雨防災情報、線状降水帯及びバックウォーター等を考え、この時、人間の特性である「正常性バイアス」「同調性バイアス」等を考察する。また、「災害時要支援者」の対策についても考慮する。防災上の観点から地域のハザードマップ、外水氾濫防止対策、塩水抜き装置等の存在を前提に地域防災能力向上のための施策を地域として、個人としての両面から提案・助言する。
菊池 富美子 飛脚から見る時代の流れ	飛脚とは、江戸時代に発達した商業形態で、手紙や荷物を運ぶためにリレー形式で走ったものです。幕府専用の継飛脚や幕府や大名だけでなく、一般庶民も利用できる町飛脚などに分けられます。伝説、俳諧、川柳、飛脚のよもやま話が多くあります。
岸本 吉弘 循環型社会へ地方の取り組み	我々の生きた昭和、平成の時代は物資の多さが豊かさや幸とされ、多くの人が地方から都市部へ移動して遠くの場所で作られた物資を入手して惜しみなく消費出来たが豊かさが実感できない。更に物の豊かさや引き換えに何か大切なものを失った。大切なものは何か？衰退する地域の活性化のため地域資源活用する地方の取り組みを探る。
小西 眞知子 食品ロスの現状を知る～一人一人が今できること～	私たちは、お金さえ出せば食べものが手に入る飽食の時代を生きてきました。しかし、世界では未だ食べ物が不足し飢餓に苦しむ人々もいます。食品が必要な場所に渡らず、一方では、溢れ捨てられしまう食品ロスという問題、未来を担う大切な子、孫たちのため、食べものをムダなく消費していくために今できる事を、主婦ならではの目線で紐解いていきます。
高田 繁範 播磨の民俗行事 ～福留日岡神社の獅子舞～	播磨地区の祭りには必ず獅子舞が登場してきます。「播磨獅子どころ」と云われ、獅子舞は、播磨を代表する民俗行事と云ってもいいのではないのでしょうか。特に、この加古川地区では盛んに奉納されています。何故、播磨に多いのか、また、ほかの地区の獅子舞と播磨の関係も一部考察しました。
高田 繁範 合掌造りと結～世界遺産白川郷の扱首構造を訪ねて～	1995年ユネスコ世界遺産に登録された白川郷。有数な豪雪地帯に並ぶ合掌集落。江戸末期から明治初期に建てられた建物、江戸時代には金沢藩も一目置いたという合掌の里、また釘など金物を一切使わない建物・人々の助け合い 結 による茅葺屋根の葺き替え作業等々、動画を交えながら荻町を中心に紹介いたします。

<p>豊島 征子 播磨の「西国街道」を行く ①西播磨編</p>	<p>道は人の移動、物の流通、文化の交流などで時代を反映しています。時代の移り変わりにより「西国街道」は姿を変え、周辺の風景も大きく変わっています。昔の旅人たちが見た風景、今はどうなっているだろうか。絵図や記録、日記をもとに岡山市三石駅から明石市朝霧駅間の西国街道を歩きました。今回は西播磨の自然も人も、旅人を癒してくれるいい街道を写真とともに見ていきます。JR 駅間の西国街道を繋ぎ表にしました。</p>
<p>豊島 征子 播磨の「西国街道」を行く ②東播磨編</p>	<p>東播磨は、平洋戦争で焼かれ、急速な開発で街並みは変わり、追い打ちをかけるように阪神淡路大震災で昔の面影がなくなった地域が多くあります。西国街道は、萩藩主毛利氏の参勤交代に役立てるために作られた道路案内絵図、萩から江戸までの『行程記』、『中国行程記（山陽道）』により見る事が出来ます。今回も絵図や記録、日記をもとに今の東播磨を歩きました。特に姫路城・明石城境界は変化が多いですが、市外などは昔の風景を見ることが出来ます。</p>
<p>萩原 靖忠 明石の漁業・漁村</p>	<p>今は水産業は大きな変化にあり、漁獲量生産量は減少、漁業者の減少、高齢化の加速が進み、気候変動による魚種の変化、海洋問題も言われています。我が町、豊かな東西海岸線に接している明石について、歴史の視点から町を調べ、「明石の漁業・漁村」から明石の漁業（漁村）の歴史、鹿の瀬をめぐる漁業権争いの歴史、海辺に暮らす人々や漁業を生業とする人々にとって海の御恵み、その信仰は時代とともに広がり、家内安全、商売繁盛、豊漁豊作の御神徳で、神様「福の神」として根付いた神社として調査研究とした。</p>
<p>萩原 靖忠 日本酒を考える・「酒ごよみ」</p>	<p>日本酒とは我国独得の方法によって米から作られた酒のことである。麹菌は日本の「国菌」と呼ばれ、伝統食品の製造に利用され、国酒、国民酒である。2013年ユネスコにより「日本の伝統的な食文化」が無形伝統遺産に登録され、伝統的な日本食文化の一つで日本酒について「日本酒を考える～その魅力と功罪～」を考えて、多くの蔵元が地域に存在し、地域文化と密接に関係し、地元の食材や料理から社会儀礼、食みち、供し方、酒器の変遷、日本酒と文学について「酒ごよみ」を吟味した。</p>
<p>萩原 靖忠 四国八十八ヶ所札所歩きお遍路の旅</p>	<p>令和6年は、石川県能登半島を襲った大きな地震により明け、自然の猛威の前に霧散した。四国八十八ヶ所札所をお参りして、お大師様の慈悲の心で見守ってくださる尊さを信じ、ただひとつ真心で、心の奥にある本当の自分に気づき、自然の豊かさ、その自然から受ける現在の混迷する世界情勢、地球温暖化から科学と宗教の接点を、紀行体験から、発心の道場、修行の道場、菩提の道場、涅槃の道場を修行して、本来の人間の優しさ助け合いから、祈りについて、少し微力ながら掘り下げてみた。</p>
<p>花本 秀生 お酒の話 ～清酒（日本酒）を中心に～</p>	<p>お酒は種々の祭りや行事と共に発展してきました。そして、お酒によって文化形態が形成されたり、社会習慣が維持されていることが多くあります。また、お酒は多くの人々に親しまれ飲まれ、我々の最高の友であると言っても過言ではないと思います。このように身近にあるお酒を知り、うまく付き合い、健康で楽しい人生を送っていただくうえで少しでも役立てばと思います。講義では、酒類の概要、清酒の話、お酒と健康（代謝、効用、リスク）などについて、よもやま話も含めてお話させていただきます。</p>
<p>堀 隆一 日本万国博覧会の思い出</p>	<p>1970年に開催された日本万国博から52年経た。万博の歴史、誘致活動、建設について述べると共に、筆者の183日間に及ぶアルバイト経験から太陽の塔、大屋根、万博の代表的パビリオン、催し物、働く人々、各種乗り物に言及し、当時未来物語であった技術が現在実用化されていることに触れる。万博の跡地は文化的遺産として利用されている。次の2025年関西・大阪万博への期待を述べる。</p>

<p>堀 隆一 イノベーションと独創性</p>	<p>ドラッカーの「イノベーションと起業家精神」から、イノベーションのきっかけについて講義する。イノベーションは難しいことではない。発想の問題である。マクドナルドの商品には何ら新規なものはない。仕組みが新鮮で、そこに新規性がある。ドラッカーは「思いもかけない成功、失敗」から最も容易にイノベーションが起こるといふ。これも含めて、七つのイノベーションの機会を詳述する。それを商品化、実用化するには別の工夫が必要だ。独創工学についても説明する。</p>
<p>光田 守 (准) 環境問題「ごみ問題」 ～海洋プラスチックごみ問題を中心にして～</p>	<p>プラスチックは、今では日常生活には欠かせないもの、プラなしでは社会生活が成り立たないものとなっています。一方、捨てられたものが海中に漂い、それを誤飲誤食したり、漁網やビニール袋が絡まり死に至る海洋生物もたくさんいます。それ以上に添加剤や残留性有害汚染物質などの目に見えない影響の方が一層恐ろしいのです。プラ問題を、私たちは今後どうすべきかを考えたいです。</p>
<p>宮本 博道 スマホ社会を生きる</p>	<p>(1) スマホをとおしてみえてくる5つの社会 ①キャッシュレス社会 ②ペーパーレス社会 ③オンライン社会 ④セルフ社会 ⑤メタバース社会 例えば ペイ払い、スマホ注文、病院・レストラン・乗車券等などの各種予約、アマゾンなどのネットショッピング、バーチャルストアなど。私たちはこのように変わりゆく社会をどう生きてらいいのか。 (2) スマホの便利な使い方、安心、安全な使い方。</p>
<p>宮本 博道 一人暮らしの社会支援</p>	<p>終活は社会と大きく関係し、特に家族のいない一人社会での在宅介護、葬儀などは早急に対策を講ずべき社会問題となってきた。かつての葬送は、村・町の共同体によって行われてきたが、社会単位が家から家族、核家族、個人に移るにつれ、終活も一般葬から家族葬、直葬へと個人化してきた。しかし、これからの一人社会、多死社会にあっては、このような葬送を含む終活は個人では支えきれず、自治体もこれに気づき支援を積極的に行うようになってきた。これが終活の社会化、社会支援であり今回は自治体の終活支援に絞って考察してみる。</p>
<p>宮本 博道 変わりゆく葬儀～骨上げしないとうなるなど～</p>	<p>振り返ってみると、私たちの親の時代は兄弟が多く多子若齢社会で、現在は少子高齢社会に移り、これからはパートナーが亡くなったり、結婚しない独身者が増えていくことで多死、一人社会が到来する。このような中、お葬式の例でみると、かつての葬送は、村・町の共同体によって行われてきたが、社会単位が家から家族、核家族、個人に移るにつれ、終活も一般葬から家族葬、直葬へ、そして骨上げしないゼロ葬へ変わりつつある。では、骨上げしないとうなるのか？</p>
<p>宮本 博道 今は男性も料理をする時代？～男性はどのような料理ができるのか？～</p>	<p>日本ではまだ女性の役割として食事を作らなくてはいけないという価値観が残っているが、今、共同作業として料理をつくるのではなく、それぞれが自分の料理をつくり、食べるという料理の個人化、個性化が進んでいる。それぞれの嗜好、その時食べたいものが違い、食事する時間も異なるからである。では、いったい男性はどんな料理ができるのか。</p>
<p>森本 国昭 地球環境問題と健康について</p>	<p>地球の歴史上、気候の温暖化や寒冷は幾度も繰り返されてきたと考えられます。また、地球環境は産業革命以降生産活動が急激に拡大し、排出される不用物の量も同様に拡大しました。その結果、地球環境に様々な悪影響を及ぼしています。その典型的な現象が現在叫ばれている「地球温暖化」現象です。私たちが環境に配慮した生活を「あたりまえ」と気づき、問題解決に向けた行動の第一歩を踏み出すことが大切なことではないでしょうか？</p>
<p>山根 敬喜 アメリカでの滞在体験あれこれ～一般生活編、NASAにも出張～</p>	<p>私は宇宙開発技術者として今から約30-40年前、NASAと調整・協力するユニークな仕事に携わった。そのためアメリカ、主に南部に頻繁に出張・滞在しアメリカ人との交流も多く貴重な体験をした。日本とはあらゆる点で大きく異なる国アメリカで私が感じた同国特有の色々な生活体験をトピックス・エピソードなどを交え平易に発表したい。あわせて米国の特徴やその国民性など日本との比較も交えその一端を示す。また、NASAとの仕事の概略、スタッフとの交流も簡易に紹介したい。</p>

<p>渡瀬 久雄 (准) 古地図の港を訪ねて ～播磨灘を中心に～</p>	<p>江戸時代の物資輸送は陸では牛馬を使っていたが、あくまで船輸送の補助的役割であった。川での舟運で海運がある港まで運び港で廻船といわれる和船で目的地に運んでいた。当初は陸の近くを行く沿岸航行であったが、技術が進んで船が大型化して沖乗りをするようになる。そんな船乗りは「地図」を使っていたのか？</p>
---	---

C 自然科学

1 物理・化学・工学

講師名・テーマ	講義内容
<p>岸本 吉弘 ウランとエネルギーの話 広島への道のり</p>	<p>今年(2024年)は第2次世界大戦の終了から79年経つ。1941年に太平洋戦争が始まり1945年になると日本の多くの都市は米軍の爆撃で焼け野原になりさらに8月に広島と長崎に原子爆弾が投下されてその一週間後に終戦となった。巨大なエネルギーを持つウランがどのようにして開発されて広島へ来たのか～エネルギーの本質はどのようなものか、分かり易く解説する。</p>

2 医学・生物・農学

講師名・テーマ	講義内容
<p>岩崎 富子 未来予想 20年後の医療・介護は一目覚ましく進歩していく医療・介護は人類にとって幸せでしょうかー</p>	<p>未来の医療・介護はAIやロボットとの共生が重要になると考えられますが、その結果高度医療技術の発達により、健康寿命も100歳どころかそれ以上の見たこともない世界が訪れるかもしれません。AIは人類に繁栄をもたらすのでしょうか。「再生医療」「遠隔診療」等の未来医療で人類に幸せが訪れることを期待し20年後を覗いてみましょう。</p>
<p>宗田 晃正 家庭菜園なら誰でもできる野菜の有機・無農薬栽培</p>	<p>安価な輸入野菜、工場・温室栽培などにより野菜の年中入手が可能となった。しかし、季節感のない野菜は栄養価の低下を招き、現行の化成肥料・農薬投与による慣行農法は、動植物の生態系を狂わせ、農薬が人体にも障害を及ぼす結果となっている。野菜の有機・無農薬栽培について、数多くの情報を収集し、パソコンデータベースを構築、独自の野菜作りカレンダー等も考案。自らも堆肥や「自然農薬」等を手作りし、自宅の菜園で野菜作りを楽しむ。野菜の有機・無農薬栽培の必要性や実践方法を分かりやすく解説します。安全で美味しい野菜は自ら作るに限る。家庭菜園こそ有機・無農薬栽培を！</p>
<p>田中 稔 コウノトリの野生復帰成功の取り組み</p>	<p>生育環境の悪化により、日本の空から姿を消したコウノトリの野生復帰を目指して、多くの先人は60年以上にわたり数々の取り組みをしてきた。絶滅した動物を野生に復帰させるという、世界に前例のない取り組みは困難を極めたが、粘り強い取り組みが奏功し、現在、250羽以上のコウノトリが全国の空を舞うまでになった。その成功の取り組みについて調査した事柄をまとめた。</p>
<p>花本 秀生 ひょうごの天然記念物～植物を中心に～</p>	<p>天然記念物は文化財の一つで、私たちの宝です。この講義では、その天然記念物の概要を説明し、次いで、兵庫県の天然記念物(国指定・県指定)について内訳や種類などを説明させていただきます。そして、私が見てきた天然記念物の一部を、写真で紹介します。また、20年前との比較や指定を解除されたものも少し紹介します。身近にある天然記念物に関心を持っていただき、次の世代の人々に伝えられるようになるのにも少しでも役立てればと思っています。</p>

3 地球・天文・地学

講師名・テーマ	講義内容
<p>上野 匡則 「地震と火山の国 日本」 ～歴史地震から学び、災害から身を守る～</p>	<p>地震・火山の過去を振り返り、今後起きる可能性の高い地震・火山噴火について述べ、いざという際の対処方法について解説します。</p>
<p>上野 匡則 「災害に対する処し方」 ～BCP（組織の災害時への事前対策）の重要性～</p>	<p>日本列島における、様々な災害と、それに対する企業など組織の事前対策について考えます。BCPとは。そして、その重要性について。</p>
<p>亀井 忠祥 南海トラフ巨大地震に対応する地域対策</p>	<p>駿河湾から四国沖まで延びる南海トラフでは、100年から200年の間隔で巨大地震が繰り返し発生し、広い範囲に大きな被害をもたらしてきた。南海トラフ地震は必ず起こるもので、日本列島に住み、生きていく限りは避けられない「宿命の巨大地震」と言われている。「南海トラフとは何か」「次の地震はいつ起きるのか」「予知はできるのか」「富士山も同時に噴火するのか」「津波はどうか」などについて考え、地域としての対策を考える。</p>
<p>原田 靖子 地球温暖化が環境や私たちの健康に及ぼす影響とその対応</p>	<p>温暖化の原因とその影響、人の健康への影響について述べる。結果、地球温暖化は人類が引き起こした大きな問題であることもわかった。今後の課題としては、気候変動を他人任せではなく、私たち一人一人の自覚と行動が重要と皆さんに訴えていきたい。</p>

令和6年7月作成